

2022年9月より約4か月間、ESSECにて交換留学をさせていただきました。ESSECはフランスを代表するグランゼコールの一角を担っており、私が参加したMaster in Managementというコースはフランス国内のランキングで2位につけています。そこでの日々の学習や生活について、感じたことを報告いたします。

① ESSECでの学校生活

9月より約3か月間、講義を受けました。私は、Luxury Retail Management、People and Organizations、Competitive Strategy及びフランス語の語学学習の講義を履修しました。上記は、1日で3時間または6時間の授業で、全て英語で展開されます。社会人経験やインターンシップ経験が豊富な学友が多く、毎回行われるディスカッションは知見に基づいたハイレベルなものとなり、予習復習が不可欠でした。レポートやプレゼンテーションも多く、アウトプット型な授業形態でした。しかし、ただ大変なだけではなく、1回の講義の途中で20分ほど休憩時間があり、構内にあるカフェの自販機やスタバでティータイムを取り、学友や教授と談笑するといった和気藹々とした雰囲気がありました。構内設備に関しても整っており、図書館や食堂、バー等に加え、Financial Labという場所では学生でもBloombergのデータベースを使用することができました。ファイナンスに興味がある方にとって素晴らしい設備だと思います。また、ESSECの運営側が歓迎会、交流会、送別会等、各種イベントを開いて下さるため、クラスや学年の枠を超えた新たな友人も作りやすい環境でした。

② 日常生活

ESSECの校舎があるCergyという地域の寮に住んでいました。寮からは、大学はもちろんのこと、大型ショッピングモールも近く、日用品の買い出し自体には全く支障を感じませんでした。ただ、パリとは異なり英語話者が少ない地域であるため、店員の方とは度々フランス語で会話をしなければならなかったことには苦労しました。寮は駅にも近く、予定通りの運行ならば40分程電車に乗ればパリ中心部にもアクセス可能です。休日や授業終わりにパリに友人とくり出し、食事や美術館巡り、買い物を楽しみました。また、長期の休みにはヨーロッパの近隣諸国にも出かけました。私自身は、スイス、ドイツ、イタリアに訪れ、他国を旅行した友人と土産話に花を咲かせました。各国の同異点を実感でき興味深かったです。他にも、ESSECの学生団体が多様な交流イベントを用意してくださり、私はそれを利用してフランス国内のモンサンミッシェルに行きました。季節のイベントとしては、11月後半から入るクリスマスシーズンも印象深いです。ストラスブールやパリの美しく大規模なクリスマスマーケットを皆で回った思い出は宝物です。

③ 今後留学をご希望される方へ

コロナやエネルギー問題、フランスの治安、私自身の語学レベルの問題等、行く前は種々の不安がありました。しかし、様々なバックグラウンドを持つ学生とともにビジネスを学び、フランスやヨーロッパならではの文化に触れることができた今回の留学は、実感を伴ったグローバルな視点を育んだかけがえのない経験となりました。海外に興味がある方、今までと異なる新たな経験がしたい方には本留学プログラムをお勧めします。

最後に、今回の留学を遂行するにあたり、早稲田やESSECの留学担当者の方々、教授陣、学友達に支えていただきました。この場をお借りし、御礼申し上げます。



↑ ESSEC 正面

↑ カフェテリア

↑ 凱旋門

↑ ストラスブール